



新宿・大久保駅周辺はその昔、牛が寝そべる牧場がある、のどかな郊外の文士村だった

文士村散策

新宿・大久保いまむかし

茅原健
Kayahara Ken

文学
歴史
コーナーで
お願いします!

藤村、独歩、落葉、秋骨、葉舟、八雲、克己、一念、夕暮、綺堂、
あるいは大久保文学倶楽部を主宰した
著者の血縁・日本評論社の茅原茂などの記録を渉猟し、
幻と化した大久保文士村住人の日々を探る。
本書は2004年に日本古書通信社より刊行された
『新宿・大久保文士村界隈』の増補改訂版である。

ノスタルジックな
新宿文学
地図



文士村散策

茅原健

茅原健

ノスタルジックな
新宿文学
地図

高層ビルが林立する
新宿西口新都心
ここがその昔
牛が寝そべる
牧場であったとは
ちよつと想像がつかない

- ・前書きとしての、新宿・大久保いまむかし
- ・稲荷鬼王神社に一礼
- ・そもそも文士とは
- ・画家、岡落葉の大久保文士村
- ・大久保村から始まった「十日会」
- ・坪内逍遙が賛助人の「大久保文学倶楽部」
- ・茅原茂（蘭雪）のことなど
- ・国木田独歩、鯉井の「大久保会」
- ・大町桂月、絶賛の大久保の踰躍
- ・「郊外論」あれこれ
- ・西大久保が終の棲家、小泉八雲
- ・島崎藤村が「破戒」を書いた西大久保の家
- ・オホクボムラに住む水野葉舟
- ・前田夕暮の第二の故郷、西大久保
- ・「武蔵野」の風情が残る戸山ヶ原
- ・幻のテーマパーク戸山ヶ原
- ・大久保文士村界隈に流れていた蟹川
- ・夏目漱石「三四郎」の大久保飯島
- ・郊外を求めて、曾宮一念の「明治年代の大久保」
- ・大久保村のめし、「大正・昭和戦前の大久保」
- ・半七捕物帖「岡本綺堂の『郊外生活の一年』
- ・ハンガリー文学者、徳永康元の「大久保の七十年」
- ・農政問題の研究者、大内力の「百人町界隈」
- ・社会主義者、大久保村界隈の「屯所」
- ・小暮悠太（加賀乙彦）、戦前の西大久保
- ・「東京を歌へる」考

ISBN978-4-86766-016-4
四六判・並製・288頁

定価：本体 2,200円（税別）

【新刊申込締切】 2023年08月15日（火）

【取次搬入予定】 2023年08月18日（金）

※注文扱（返条付・岡田了解）にて
搬入いたします。フリーで返品受けます。
逆送されたら、八木書店（文学通信・岡田）了解
とお書き下さい。ご面倒をおかけいたします。

【ご注文について】

実際に手にとって見てみたいといった場合など、1冊でも構いません。遠慮なくご注文ください。
また、本書についての問い合わせも歓迎です。

営業部・岡田 [電話 03-5939-9027]

【注文書】 FAX 03-5939-9094

メールでも承ります ● info@bungaku-report.com

問い合わせはお電話で ● 03-5939-9027

取引取次 ● 八木書店。八木書店を経由して、トーハン・日販・大阪屋栗田・日教販・中央社等へ搬入いたします。

● 番線印

● 冊数

新刊 文学通信

茅原健【著】 Kayahara Ken

文士村散策

新宿・大久保いまむかし

冊

ISBN978-4-86766-016-4

定価：本体 2,200円（税別）

◎ ご担当者

◎ 電話番号